

平成 29 年度第 2 回大阪府都市計画審議会常務委員会部会議事録《要旨》

- 日 時 平成 29 年 12 月 18 日(月) 13:00～15:00
- 場 所 大阪府庁本館5階 議会特別会議室
- 議 事 (1)第1回部会における主なご意見
(2)府営公園の課題
(3)基本理念、基本方針
(4)中間報告(素案)
- 出席委員 加我部会長、赤澤部会員、井原部会員
- 事務局 都市整備部都市計画室公園課長 ほか

○議 事

加我部会長

本日は、府営公園の課題や今後の基本方針などについてご意見をいただき、都市計画審議会への中間報告(素案)の議論をしたい。

<資料1～3 事務局説明>

赤澤部会員

課題は、各府営公園の現状や成り立ちだけでなく、環境の変化から導きだされるものもあるが、一言で人口減少・少子高齢化で説明するのではなく、子育て世代の施策の重点化、生涯学習への府民意欲の高まり、地域コミュニティの再生、高齢者の健康づくり等、そこから派生した社会の変化を丁寧に取り上げて、「公園緑地を取り巻く環境の変化」として書いた方がよい。

平成5年の基本構想の理念の一つに、心と体を育む公園とあるが、都市公園は心の部分が大事である。心の健康、働き方、住まい方、大阪に住み続けてもらうための満足度、心地よさ、安心感等に関わること。都市公園らしい心のところを書けば、課題につながる。

課題の「多様化・高度化するニーズ」で、都市公園を持続的に維持管理・運営していくため、民間活力を積極的に導入し、公園がよくなって府民にサービスが還元されて、また公園が儲けてという循環の必要性についても強調して書いてもよい。

井原部会員

府営公園の成り立ちやニーズに関して非常に細かくデータ収集・分析を行っているのに、その結果が府営公園の課題の中にどう反映されているのかが不透明。

府営公園の特性をよりきめ細やかに見て、その特性に根ざした整備や維持管理のプラン策定が大事で、核になるところ。

課題のところ、ニーズや履歴の分析結果を具体的に盛り込んでいけばよい。

加我部会長

全ての府営公園が特徴なく同じように見えるので、各府営公園は異なる特性をもち、その特性に応じた整備や来園者数の増加の取り組みを行ってきたことを、代表的な公園を例示して説明する必要がある。

井原部会員

詳細に全ての公園の特性について、今の段階で説明する必要はないが、アンケート結果等の分析内容を現状のところ、もう少し細かく書き込むことで、課題の説得力が増し、具体的なことが見えてくる。

赤澤部会員

公園の使い方は、時間ごと、曜日ごとに異なり利用者の世代によっても異なる。どのような利用者(ターゲット)を対象にするかによって、対応が変わってくるということ、健康等、重要なキーワードを使って、環境の変化のところで記載が必要。

井原部会員

府営公園の課題で、多様化、高度化するニーズとあるが、公園でどこまで対応すべきかを考えたときに、誰のどんなニーズなのか説明がないと、具体性に欠けてしまう。

加我部会長

みどりの大阪推進計画は、公園だけでなく、都市緑化等も含めたすべてのみどりが効果を発揮し、役割分担をして目標の達成を目指すものであり、すべてのみどりの中で、府営公園の位置付けを示すことが必要である。

井原部会員

一つの公園で、全てのニーズに対応できるわけではない。全ての公園が全てのニーズに対応しようとする、公園毎の特性が無くなって、府営公園の存在意義が失われていく。これだから府営公園ですということを出していく必要がある。

赤澤部会員

構成としては、最初に府営公園の意義というか、役割があり、そのうえに環境が変化し、これまでの取り組みがあつて、その結果、現状がある。

課題については、府営公園で対応できていないことや、対応してきたが社会変化の中で新たな課題となったものもあるのではないかと。

加我部会長

現状のところ、来園者数、防災公園、主な府民ニーズをコンパクトにまとめすぎっており、現状からも課題がでてくるはずだが見えてこない。

赤澤部会員

府営公園の課題として、単に来園者数や公園での滞在時間ではなく、適正な評価というものもある。公園ごとの評価軸をもって対応することが課題から読み取ればよい。

加我部会長

公園ごとに置かれている状況や利用ニーズが違うので、課題には、公園ごとに異なる特性に配慮した公園の本来機能の充実と書かないといけない。

井原部会員

府営公園はその時代のニーズに応じてきた拠点施設であるという存在意義を示し、現在、非常に多様なニーズが多角的に膨らむ中で、どう対応していくのか。全公園一律ではなく、もともとの設置目的と照らし合わせながら、今のニーズとのバランスをとりきめ細やかな対応をしていくという説明をすればよい。

加我部会長

公園が設置されてきた年代はとても大事。その時代の社会背景が想像される。平成に入って全ての公園で同じようなことが求められ対応してきた。

赤澤部会員

マネジメント型の計画であることを正しく伝えるべきである。もともとの公園の意義や公共性を踏まえ民間活力、ノウハウを活用する仕組みが必要。

基本理念に掲げた各理念を実現するため、マネジメントの強化が必要という柱を追加する必要があるのではないか。

赤澤部会員

ユニバーサルデザインの意味が最近では広がっている。多言語対応や全ての方が等しく社会に関われることまで含まれている。安全安心という言葉でユニバーサルデザインをつなぐことでよいのか。

井原部会員

基本方針で、地域の活性化に貢献できるよう賑わいを創出とあるが、いろんな人が関わり活気にあふれる公園にするということは、マネジメントに直結すること。活力という言葉を組み込むことによって、理念と方針がつながる。

今回示された基本理念の前提として、平成5年の基本構想の基本理念があると思うが、時を超えて生きる公園というのは、活力の意味でもあり、これが、大阪の魅力を高める地域資産としての価値と、今のマネジメントとを合わせると、時間をかけながらつくっていく公園という動きが見えてくる。

加我部会長

基本方針で、防災公園の整備推進だけが非常に具体的で、目的とか姿勢が無いので、減災に資する防災公園という意味があればよい。

赤澤部会員

安全安心は公園があれば達成できるわけではなく、府民意識が重要。それが心の安全安心につながるようにすべき。施設管理だけでなく防災教育等の取り組みも必要。

井原部会員

売店などの利便施設だけというイメージを持たれないよう、にぎわいという言葉は避けた方がよい。歴史系の公園の現場では混乱する。活力等の表現にすべき。

赤澤部会員

全体的に、基本方針は管理者が行うような文言であるという気がする。公園の管理運営は管理者だけでなく、いろんな主体が公園ごとにいろんなやり方で運営する。それを伸ばして個性豊かな魅力的な公園づくりを推進していくべき。

基本理念では都市経営、基本方針には主体を入れ込んだ大きな方向性、府だけで取り組むのではないと示した方が、施策の方向性につながりやすいのではないかと思う。

井原部会員

基本方針に公園経営という評価が入った方がよい。活力を育む施設としてしっかりと公園経営を考えていくところが欠けている。

加我部会長

本日いただいた意見を参考に、整理して、次回の常務委員会に臨みたい。これで第2回部会を終了する。